

SEEDS Asia 東北支援プロジェクト

被災者の自立的な復興を支援し、震災の教訓をつなぐ

2011年3月11日に日本の東北地方を襲ったマグニチュード9.0の地震とそれに伴う津波は、沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。SEEDS Asiaは、発災後より、インターネットを通して世界に向けて被災状況の発信を行うとともに、被災者支援のための調査を重ね、2011年6月より、宮城県気仙沼市に事務所を構え、支援活動を展開しています。

(1) 自立的な復興のために

お茶会開催による 交流の場の提供

仮設住宅の入居者は従前のコミュニティから離れている場合が多く、過去の災害では孤独死が発生して問題になりました。そこで、仮設住宅団地やその周辺にお住まいの方々が交流できるよう、仮設住宅団地を訪問して、お茶会を開いています。

(2) コミュニティペーパー等 による情報提供

コミュニティペーパーの作成により、情報の乏しい地域に対して、地域情報や地域イベントの開催情報等を広くお伝えしています。また、コミュニティラジオへの情報提供も行っています。

(3) 既往災害での 活動経験者による相談会

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震等の経験者をお呼びして、復興活動を行う地元の方や被災者の方々に對して当時の経験や教訓を共有したり相談に応じたりする機会を設けています。

(4) コミュニティ活動支援

地区祭りなどのコミュニティ活動の実施に向けて住民のみなさんとの共同作業により、企画からその実現までのお手伝いをしています。また、その一環として、仮設住宅にお住まいの方の生きがいづくりの支援も行っています。

(5) 震災の教訓を次世代へ

被災地内外の学校間の 交流活動による防災教育

将来を担う子どもたちが震災について考え、被災地の復興や今後の防災活動につなげられるよう、防災教育を10年間続けてきた兵庫県立舞子高校と被災した学校で復興や防災について考える防災教育交流プログラムを実施しています。

(6) 途上国に対する 震災の教訓に関する研修

SEEDS Asiaでは、自然災害に被災した途上国において防災教育を行い、コミュニティの防災力を強くする活動を展開しています。その活動でも、今回の震災の教訓が生かされるよう、震災教訓に関するセミナーの開催や、視察研修受入れといった活動を進めています。

(7) 現地での事業実施体制

現地では、気仙沼復興協会(Kesennuma Reconstruction Association :KRA)とともに活動しています。気仙沼復興協会は、震災により仕事を失われた方々に、復興支援業務を仕事として確保するために活動を開始した団体です。SEEDS Asiaは、気仙沼復興協会との活動を通して、被災者の、被災者による、被災者のための復興を後押ししていきます。